10月10日（土）

		第５別館						B号館	
		分科会場１（第１教室）	分科会場２（第２教室）	分科会場３（第３教室）	分科会場４（第４教室）	分科会場５（第５教室）	第６教室	201教室	103教室
9:30	受付開始								
10:00 - 11:40	**若手研究者フォーラム１**	**分科会１ 美学・芸術学①** 司会：小林信之（早稲田大学）	**分科会２ 美学・芸術学②** 司会：島本浩平（広島大学）	**分科会３ 西洋美術史①** 司会：深谷敦子（京都市立芸術大学）	**分科会４ 音楽学①** 司会：田之頭一紀（大阪芸術大学）	**分科会５ 現代アート①** 司会：竹内恭輔（立命館大学）			
		10:00-10:30 片岡恵梨（神戸大学） ライプニッツ『人間知性新論』における感覚的喜びの作用	10:00-10:30 今井貴絵（東京藝術大学） 観念が形作る自己陶冶 ——橋本真之の「林檎体験」と「工芸的志形」行為との循環構造	10:00-10:30 岡山知東（慶應義塾大学） アングラン・カルトン作《聖母戴冠》図像プログラム再考——契約書受容の再定位とカルトジオ会における修道院共同体の関与をめぐって	10:00-10:30 平田美桜（京都大学） 詩はどのように聴取されるのか——ミショー「夜のなかで」とアンリ・ソゲの顧客	10:00-10:30 松村太地（京都工芸繊維大学） グラント・ケスターの「対話の美学」における「対話」概念の批判的検討——芸術祭・アートプロジェクトのキュレーション分析に向けて			
		10:35-11:05 高西李成（大阪大学） もはや失われた快について——カント『判断力批判』における美と認識	10:35-11:05 東田宜智（京都大学） 感動の成立——「感ずべき事の心」を手がかりとして	10:35-11:05 福内 秀平（青山学院大学） 16世紀の聖霊文化におけるピーテル・ブリューゲル1世の絵画装飾——ニクラース・コンザリンクの別荘食堂における絵画受容	10:35-11:05 金祐恩（東京大学） 環境音による感情的「避難所」の構築——サウンドスケープ理論の再考	10:35-11:05 須恵 慎（京都工芸繊維大学） ジェリミー・デラー《オーグリーグの鉄いのアーカイブ（一人の傷みは全員の傷み）》のアーカイブ・インスタレーションに関する一考察——参加型作品における事後的な編集をめぐって			
		11:10-11:40 上田悠策（慶應義塾大学） 趣味判断と自己形成——ニーチェの解釈論と「大いなる様式」を手掛かりに	11:10-11:40 吉次慧（京都大学） 茶会における親のはたらき——いかに風向を変えるか	11:10-11:40 奔時敏多（東北大学） フェルメールにおけるキリスト教的伝統の応用と神秘的世俗画の形成——「手紙を読む女」と受胎告知の関連性	11:10-11:40 末田明日斗（神戸大学） 聖念としてのバンクーバンク/ポストバンクにおけるDIYの系譜学	11:10-11:40 北爪智佳子（京都大学） マリア・テスニックの1970年代におけるプラスチック彫塑の表象——身体感覚の視覚化をめぐって			
11:50 - 12:50	総会	※お弁当（事前注文者のみ）は、12:00から第５別館１階ロビーで配布します。					総会		飲食会場
12:50 - 13:40	昼休憩								
13:40 - 15:05	**研究発表１**	**分科会１** **ドイツ・ロマン主義の思想** 司会：小田部胤久（日本学士院）	**分科会２** **分析美学（フィクション論・ゲーム論）** 司会：吉田寛（東京大学）	**分科会３** **西洋美術史（19世紀・近代）** 司会：佐藤艾子（慶應義塾大学）	**分科会４** **音楽学** 司会：大愛崇徳（同志社大学）	**分科会５** **芸術理論・批評（美術・映画）** 司会：森田次（大妻女子大学）			
		13:40-14:20 野村実生（東京大学） ノヴァーリスにおける「魔術」の導入知識——神秘的芸術論の多角的説解に向けて	13:40-14:20 仲池傑（東京大学） 認知的訓練——フィクションに関する認知主義の再考	13:40-14:20 武笠麻星子（一橋大学） エドガー・ドガの女性表象——従姉妹エステルの肖写における感情表現に着目して	13:40-14:20 木村遥（成城大学） 18世紀フランスにおける「舞曲の演奏に適した楽器」としてのヴィエル受容——舞踊の身体性との関係をめぐって	13:40-14:20 新屋耕拓（金沢美術工芸大学） いかにして確信を揺い出すか——マイケル・フリードの初期美術批評における観特性概念の再検討			
		14:25-15:05 橋本悠介（京都大学） Fr. シュレーゲル『研究－論文』における「模倣」概念の解明——歴史叙述の装置としての「模倣」	14:25-15:05 上野　悠（早稲田大学） 技能のゲームにおけるプレイスタイルの美学的検討	14:25-15:05 雅山　加奈子（大阪大学） スウェーデンの近代風景画における森の表象——画家たちによる手工芸への関与をてがかりに	14:25-15:05 小川　将也（九州大学） 「認識物」としてのヘテロフォニー——C. シュトゥンプの音楽学史的評価に向けての試論	14:25-15:05 細田恵之介（関西大学） 神戸とロックンロール——映画的対位法による感情喚起の分析			
15:20 - 18:30	**パフォーマンス＆シンポジウム「新しい身体論」**							15:20-16:20 レクチャーパフォーマンス 山川冬樹（秋田公立美術大学） 16:30-18:30 シンポジウム 太田充胤（東京大学） データは現前するか？——デジタル・ダンスを上演の美学に接続する 伊藤亜紗（東京科学大学） 身体の居心地をよくするために——遅れてやってくる運動としての美学 田中均（大阪大学） 「私は自分の生をどう変えるのか？」——トトルの官会と生の変容について 司会：古川真宏（関西学院大学）	
19:00 - 21:00	懇親会	会場：関西学院会館２Ｆ レセプションホール							

10月11日（日）

		第５別館					
		分科会場１（第１教室）	分科会場２（第２教室）	分科会場３（第３教室）	分科会場４（第４教室）	分科会場５（第５教室）	第６教室
10:00	受付開始						
10:15 - 11:55	**若手研究者フォーラム２**	**分科会１** **美学・芸術学③** 司会：桑原俊介（東京大学）	**分科会２** **美学・芸術学④** 司会：三木順子（神戸女学院大学）	**分科会３** **西洋美術史②** 司会：吉川晶（広島修工業大学）	**分科会４** **西洋美術史③** 司会：平井亜一（関西大学）	**分科会５** **現代アート②** 司会：池野絢子（金沢学院大学）	
		10:15-10:45 仁木裕可菜（大阪大学） 「生の最大の刺激剤としての芸術」？——ハイデガーのニーチェ講義からニーチェへ	10:15-10:45 魯本はるか（成城大学） 『孫臏美学』の道概論にみる中川重麗の美学思想——フィッシャーとの比較を通じて	10:15-10:45 飯田 七星（慶應義塾大学） サンドロ・ボッティチェッリ作《チェスティッロの受胎告知》再考——チェスティロ聖堂装飾事業における先導的役割をめぐって	10:15-10:45 高原純令（慶應義塾大学） カンディンスキーのバウハウス期色彩研究における「重なり」と「緊張」——透明／半透明な覆え方としての空間効果	10:15-10:45 藤本　美菜（同志社大学） 《ミニ独立国》での文化的実践——佐渡振興村におけるイメージ制作および展外展示	
		10:50-11:20 高原悠聖（京都大学） 古典ギリシア芸術における前後期ヘルダーの視座に対する再定置可能性について	10:50-11:20 佐藤美（同志社大学） コンラート・フィードラー『芸術活動の起源について』における芸術作品の経験——「ともに体験する（Miterleben）」を中心に	10:50-11:20 高島康子（慶應義塾大学） ヴィジェールブランにおけるラファエッロの受容——イタリアと亡命前後の「自画像」を中心に	10:50-11:20 松下賞（京都大学） 袋から《袋》へ——アルベルト・ブッリ《袋Sacco》の初期制作実践をめぐって	10:50-11:20 高見陸子（高松市文化芸術振興課） ビデオインスタレーションにおける知覚と物質性——石田尚志《絵と窓の間》を中心に	
			11:25-11:55 福田　敏紀（東北大学） 「生命化された幾何学」とは何か——W. ヴォリンガーによる「ゴシック精神」の芸術理論史的意義	11:25-11:55 岸新語（関西学院大学） 19世紀前半から第二帝政期にかけてのミリー・アントワネット像の変遷	11:25-11:55 板本響（九州大学） ハンス・スペメール「頭足類」作品で描かれる苦痛の表現——胴体の不在に着目して	11:25-11:55 山崎朱理（成城大学） 今敏『パーフェクトブルー』における開かれた絵本——ドゥベルケンガーの表象を中心に	
11:55 - 13:00	昼休憩	※お弁当（事前注文者のみ）は、12:00から第５別館１階ロビーで配布します。					飲食会場
13:00 - 14:05	**若手研究者フォーラム３**	**分科会１** **美学・芸術学⑤** 司会：前田泰佑（京都大学）	**分科会２** **美学・芸術学⑥** 司会：松永伸司（京都大学）	**分科会３** **西洋美術史④** 司会：川田都麗子（中南大学）	**分科会４** **音楽学②** 司会：瀬淀文子（国立音楽大学）	**分科会５** **写真・演劇** 司会：佐藤守弘（同志社大学）	
		13:00-13:30 方超華（東京大学） ベルクソンにおける美学と道徳の隣接性——芸術と宗教に見られる社会的生の機念をめぐって	13:00-13:30 巣守美羽（東京大学） 美的共同体間の規範対立——共同体間の相互関係による説明	13:00-13:30 越智公子（慶應義塾大学） ルネ・マグリットにおける「隠」の機能——「見えるもの」と「見えないもの」の探求をめぐって	13:00-13:30 中津川南紗（東京大学） ボリス・ド・シュレゼール『バッハ序論』と「私は何者でもない」における「神話的自我」	13:00-13:30 正司美菜（京都大学） グランゼ＝ギニュル劇のもたらす残響——二種の客層への着目	
		13:35-14:05 中村浩志（東京科学大学） ドゥルーズにおける言語の問題——「言語を吃らせる」という表現について	13:35-14:05 福原直紀（東京大学） 「悪かな問い」を生む表象の構造と役割——「マリオに３つの命がある」こと	13:35-14:05 小塚麻優子（一橋大学） 血の表象と観案における場所性——ワイエス《クリスティーナの世界》とマリック《天国の日々》をめぐって	13:35-14:05 白川晴子（東京外国語大学） 受贈由という文化的装置——18世紀ライプツィヒ・ウィーンの台本比較における受贈物語の具体化	13:35-14:05 福田真衣（京都大学） シャルル・ネグレとミッション・エリオグラフィック——1850年代フランスにおける建築写真と街路の人々	
14:20 - 16:30	**研究発表２**	**分科会１** **美学・思想（18世紀）** 司会：杉山泰宏（京都大学）	**分科会２** **美学・思想（近現代）** 司会：森田瀧（同志社大学）	**分科会３** **西洋美術史(15~17世紀)** 司会：藤本村柳亜（兵庫県教育大学）	**分科会４** **音楽・音響メディア** 司会：金子智太郎（愛知県立芸術大学）	**特別分科会** **AIとキュレーション** 司会：古川真宏（関西学院大学）	
		14:20-15:00 島崎千恵（東京大学） イリュージョン理論における「生動性（Lebhaftigkeit）」概念の検討	14:20-15:00 大久保美紀（情報科学芸術大学院大学） エマヌエーレ・コッチャにおけるイメージの存在論——（世界規模の双子）から考える自己同一性	14:20-15:00 小笠原美菜（ゲント大学） ペーテル・パウル・ルーベンス《ルーベンスと友人たち》—ネオ・ストア主義における死と友情	14:20-15:00 室之園　直己（大阪公立大学） 1960年代の日本におけるエレクトリック・ギターの社会的価値付けと楽器メーカー	古川真宏（関西学院大学） 共通感覚は自動化できるか——AI 時代のキュレーションと美的経験	
	＆特別分科会	15:05-15:45 川野慕子（岡山大学） コナダニからヴェルネへ——ディドロにおける偶然と秩序の風景画論	15:05-15:45 今橋勇介（東京大学） J. クーザ『哲学におけるイメージの問題性 ―魂と精神の媒介をめぐって	15:05-15:45 新倉微石（大阪大谷大学） ルネサンス彫刻のマテリアリティ——フィレンツェ公共彫刻における素材・空間・身体的経験	15:05-15:45 熊澤由美（大阪音楽大学） 演奏される戦争遺物——被爆ピアノのエージェンシー	飯沼洋子（立命館大学） 《存在しなかった都市》における人間と機械の共同生成	
		15:50-16:30 青松栄矢（東京大学） 人間学としてのゲーテ『色彩論』	15:50-16:30 前田　真琴（明治大学） ひとつの大量生産品をめぐる経験——集合的本質とハイパーオブジェクト概念を手がかりに		15:50-16:30 寺村 将樹（東京大学） 録音術を（再）定義する——アナログ録音における「本物らしさ」の関係論的記述	岡山和弓（立命館大学） おもしろくない——四コママンガの完全自動生成が残したもの	
16:40 - 18:05	**研究発表３**	**分科会１** **現代アートの諸相** 司会：田口かおり（京都大学）	**分科会２** **西洋美術史（ドイツ・ロマン主義）** 司会：星開泰（慶応学院大学）	**分科会３** **日本近代美術・工芸** 司会：金美誠主（京都工芸繊維大学）	**分科会４** **日本建築・デザイン** 司会：高宮隆介（大阪大学）		
		16:40-17:20 野村敦子（無所属） アートフェアの制度的機能と鑑賞体験——オルタナティブな実践をめぐって	16:40-17:20 三井　麗央（京都芸術大学） 19世紀ベルリンの建築画における都市表象——K. E. シンケルからE. ゲルトナーへのロマン主義と光学的関心の展開	16:40-17:20 ZENG HUIRU（京都精華大学） 長谷波山の発光表現——近代日本画との関係から	16:40-17:20 柳沼 晴花（金沢工業大学） 1960年代日本のグラフィックデザインにおける「環境」概念の受容と実践的展開——「空間から環境へ」展(1966)と「モザイク」(1967)を事例として		
		17:25-18:05 梁淑桑（名古屋大学） ジュエリー展『L'Étrangère（異邦人）』は移住の物語をどう伝えたか	17:25-18:05 落合　桃子（福岡大学） フリードリヒ《山上の十字架（ケッチェ／祭壇画）》とアレゴリーの共鳴展——ラムドア論争再考	17:25-18:05 建谷玲（東京大学） リアリズム論争の再検討を通じた戦後日本美術における近代主義の存在と不在	17:25-18:05 熊本　弥子（近畿大学） 内田繁の茶室再考——アルド・ロッシと内田の交流の視点から		